

# カスミカメムシ類によるかんきつ被害と防除対策

令和4年発芽期、中島本島の一部地域の「せとか」で、新梢先端部の黒変、花蕾を含む落下等の被害が発生。平成15年に、瀬戸内海の島しょ部で発生したツマグロハギカスミカメによる被害と酷似。その時の被害は、温州みかん、いよかんのため今回とはその点が異なる。ここでは両事例を比較した。

※令和4年の中島本島の4枚の写真: 村上産業(株)片山淳氏が撮影・提供

ツマグロハギカスミカメによる  
かんきつ被害(平成15年春)



①新梢先端部の黒変 ②黄色の小斑点奇形葉 ③茶褐色の小穴葉

中島本島の「せとか」で発生(令和4年春)



被害

①新梢先端部の黒変



カスミカメムシ類幼虫

翅芽

※成虫になったときに翅を収める部分



幼虫

成虫

4.5mm

ツマグロハギカスミカメ

〈被害症状等〉

共通点: ①新梢先端部の黒変。  
→新梢や花蕾の落下。  
激発園ではほぼ芽がない状況。(聞き取り)  
相違点: ②黄色の小斑点奇形葉  
③茶褐色の小穴葉 →②③を今回は未確認。

〈虫の形態等〉

共通点: ①○のカスミカメムシ類幼虫の寄生を確認。  
→緑色で動きが早く見つけにくい(聞き取り)。  
相違点: ①○の翅芽の模様が異なり、②今回は成虫を未確認  
→種が不明

〈今回の加害種〉

- ・カスミカメムシ類による加害と推定。
- ・ただし、ツマグロハギカスミカメとは種が異なる可能性がある。

〈今後の課題〉

- ・種の同定および被害が「せとか」中心の理由
- ・かんきつ樹への産卵時期の把握

〈参考: ツマグロハギカスミカメの防除対策〉

・防除時期: 4月中旬(新梢3~5mmに伸長した時) ・防除薬剤: カメムシ類登録薬剤(例: スタークル/アルバリン顆粒水溶剤、ロディー乳剤)